２０２７年度学生募集要項【大学院工学研究科】博士後期課程の修正について

令和８年１１月２日
前橋工科大学

２０２７年度学生募集要項【大学院工学研究科】博士後期課程に修正がありましたので、次のとおり訂正します。

項目	訂正後	訂正前	ページ
Ⅰ-４出願資格審査 （１）提出期間	２０２６年１１月１６日（月） ～１１月２０日（金）	２０２６年１１月　９日（月） ～１１月１３日（金）	３ページ
Ⅵ-１．入学手続 （１）入学手続期間	【２月日程】 ２０２７年２月２０日（土） ～３月２日（火）	【２月日程】 ２０２７年２月２０日（土） ～３月１日（月）	１０ページ

Ｍａｅｂａｓｈｉ　Ｉｎｓｔｉｔｕｔｅ　ｏｆ　Ｔｅｃｈｎｏｌｏｇｙ

前橋工科大学

２０２７年度

学生募集要項

【大学院工学研究科】

博 士 後 期 課 程

〒３７１－０８１６
群馬県前橋市上佐鳥町４６０番地１
前橋工科大学　学務課入試広報係
ＴＥＬ　０２７－２６５－０１１１（代表）
　　０２７－２６５－７３６１（学務課入試広報係）
ＦＡＸ　０２７－２６５－３８３７
E-Mail nyushi@maebashi-it.ac.jp

目　　次

前橋工科大学大学院工学研究科(博士後期課程)の教育ポリシー 1
Ⅰ　試験概要 2
　Ⅰ－１．募集人員
　Ⅰ－２．入試種別と日程
　Ⅰ－３．出願資格
　Ⅰ－４．出願資格審査
　Ⅰ－５．社会人特別選抜に関する特例措置
　Ⅰ－６．修業年限の短縮
　Ⅰ－７．選抜方法
Ⅱ　出願・手順 5
　Ⅱ－１．受付期間
　Ⅱ－２．出願方法
　Ⅱ－３．出願先
　Ⅱ－４．入学検定料
　Ⅱ－５．出願書類
　Ⅱ－６．障がい等への配慮を必要とする入学志願者の事前相談
Ⅲ　試験会場及び試験日時 9
Ⅳ　受験上の注意事項 9
　Ⅳ－１．試験場への入退場
　Ⅳ－２．個人的事情による遅刻者の扱い
　Ⅳ－３．公共交通機関の遅延による遅刻者の扱い
　Ⅳ－４．受験上の注意事項
　Ⅳ－５．受験心得
Ⅴ　合格発表 10
　Ⅴ－１．発表日
　Ⅴ－２．発表方法
Ⅵ　入学手続 10
　Ⅵ－１．入学手続
　Ⅵ－２．入学に係る経費
Ⅶ　その他 12
　Ⅶ－１．個人情報の取扱い
　Ⅶ－２．前橋工科大学へのアクセス

博士後期課程開設研究室一覧 14

環境・生命工学専攻の教育ポリシー

● 入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

強い意志を持つ修士修了見込みの者及び既に修士修了後に社会で活躍しながら、自己の研究能力の更なる向上を図り、博士の学位取得を目指す人材を選抜する。

また、世界に開かれた研究科との観点から外国人留学生の受入れも積極的に行う。博士後期課程へ入学しようとする者は自身が作成した修士論文要旨や学術論文を提出し、さらに語学（TOEIC など可）と専門に関する記述試験、研究能力に関する口頭試問などを受けなければならない。なお、学業成績優秀者、企業における研究開発などの活動が十分な者に対しては記述試験免除の制度がある。

● 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

博士後期課程では、研究者として当該専門領域の国内外の学界に認知されるレベルの論文執筆指導を統合的に行う。

● 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

・それぞれの専門分野において、新規的な研究課題を自らの調査、研究に基づき設定できること。
・課題解決の方法論を自ら開発し、適用する能力を修得していること。
・それぞれの専門分野の研究者として国際的に十分に活躍が期待できること。
・学術研究を推進する強い意欲と倫理観を兼ね備える人間性を有していること。

以上の観点から総合的に判断して、専門技術者として活躍できることを認められた者に対して博士（工学）の学位を授与する。

Ⅰ　試験概要

Ⅰ－１．募集人員

研究科名	専攻名	分野	募集人員
工学研究科	環境・生命工学専攻	環境デザイン工学分野	４人
		生命工学分野	

上記募集人員は、全ての日程区分や入試種別による人員を含んだ合計数です。

１１月日程における入試での入学手続者数により、２月日程における入試での募集人員が少なくなることがあります。入学手続者数の最新情報は、本学ホームページで確認して下さい。

志願者は、１４頁以降の開設研究室一覧を参考に、研究内容を熟知した上で、必ず、あらかじめ指導教員と連絡を取り、出願することの承諾を得ておいてください。

Ⅰ－２．入試種別と日程

日程	【１１月日程】	【２月日程】
入試種別	・外国人留学生特別選抜 （海外居住者）	・進学者選抜 ・一般選抜 ・社会人特別選抜 ・外国人留学生特別選抜 （在留者）
出願資格審査書類 提出期間 （該当者のみ）		２０２６年１１月１６日 ～ ２０２６年１１月２０日
出願期間	２０２６年１０月２１日 ～ ２０２６年１０月２８日	２０２７年１月８日 ～ ２０２７年１月１５日
試験場	前橋工科大学	
試験日	２０２６年１１月２２日	２０２７年２月７日
合格発表日	２０２６年１２月７日	２０２７年２月１９日
入学手続期限	２０２６年１２月１７日	２０２７年３月２日

Ⅰ－３．出願資格

各選抜方法による出願資格は、次のとおりとなります。

A　進学者選抜

２０２７年３月３１日までに本学工学研究科（博士前期課程）を修了見込みの者

B　一般選抜、社会人特別選抜及び外国人留学生特別選抜

各選抜に出願できる者は、次の各号のいずれかに該当する者です。

（１）修士の学位を有する者及び２０２７年３月３１日までに修士の学位を授与される見込みの者

（２）外国において、修士の学位に相当する学位を授与された者及び２０２７年３月３１日までに修士の学位を授与される見込みの者
（３）外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し、修士の学位に相当する学位を授与された者
（４）文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第１１８号）
（５）本学大学院において、個別の出願資格審査（注１）により、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者
（６）社会人特別選抜については、上記（１）から（５）までのいずれかの要件を有するとともに、
①社会人として１年以上勤務又は２０２７年３月３１日に在職期間が１年以上となる者
②２０２７年４月１日（入学時）現在、満２８歳以上の者
（７）外国人留学生特別選抜については、（１）から（５）までのいずれかの要件を有するとともに、次に該当する者
・１１月日程（海外居住者）
①日本国籍を有しない者
②出願から入学手続きまで責任を持って、手続きを行う日本に居住する代理人を有する者（注２）
③出入国管理及び難民認定法において大学入学に支障のない在留資格を取得できる者
・２月日程（在留者）
①日本国籍を有しない者
②出入国管理及び難民認定法において大学入学に支障のない在留資格を有する者

（注１）個別の出願資格審査について
上記出願資格(５)により出願しようとする者は、事前に出願資格審査を行いますので、「Ⅰ－４．出願資格審査」に基づき手続きをとってください。
（注２）代理人は、検定料の納入、出願、合格発表、入学金の納入を含め、入学手続まで関わることになりますので、海外居住志願者は、代理人となる人に必ず了解を得てください。
また、各種宛先は、代理人の住所となります。

Ⅰ－４．出願資格審査（２月日程のみ）

一般選抜、社会人特別選抜及び外国人留学生特別選抜の出願資格（５)に基づき出願する者は、下記のとおり出願前に審査を行いますので、関係書類を提出してください。なお、必要に応じて、申請書類の内容について問い合わせをする場合があります。

（１） 提出期間
２０２６年１１月１６日（月）～１１月２０日（金）
（２） 提出方法
①郵送：速達の簡易書留とし、提出期間内必着
②持参：受付時間は土日祝日を除く９時００分～１２時３０分及び１３時３０分～１７時００分
（３） 提出書類
① 出願資格審査申請書 ② 出願資格審査調書（経歴書を含む） ③ 志望理由書 ④ 研究計画書 ⑤ 研究業績報告書 ⑥ 最終学校の卒業を証明する書類 ⑦ 最終学校の成績証明書 ⑧ 国籍及び在留資格を確認できる書類（外国籍の者） ⑨ 審査結果送付用封筒（長形3号の封筒に宛名を明記し、定形郵便（５０gまで）＋速達分と簡易書留分の切手を貼付してください。）
※ ①、②、⑤については、本学ホームページ（トップページ ≫ 入試情報 ≫ 大学院出願資格審査）[https://www.maebashi-it.ac.jp/examinee/admission/daigakuin-shikaku.html]よりダウンロード・印刷し、③、④、⑥～⑧については、「Ⅱ－５．出願書類」（６頁）を参照してください。
（４）提出先
「Ⅱ－３．出願先」（５頁）と同じ。
（５）出願資格審査の結果
２０２６年１２月１４日（月）に本人宛てに通知を発送します。
（６）出願手続き
出願資格審査の結果、出願資格の認定を受けた者は、本募集要項に基づき出願期間内に出願手続を行ってください。

Ⅰ-５．社会人特別選抜に関する特例措置

（大学院設置基準第１４条特例の実施方法及び実施体制）

（１）実施の趣旨及び目的

近年、経済社会の発展や技術革新の急速な進展に伴い、大学院に対する地域社会の期待が多様かつ高度化しており、特に社会人技術者、研究者等の再教育に対する要請は急速な高まりを見せています。

前橋工科大学大学院工学研究科博士前期課程においては、昼夜開講制の導入により、社会人技術者に生涯を通じて職業上必要な高度な専門技術を高める機会を積極的に提供し、社会人の再教育及び生涯学習の機会拡充に取り組んできました。

今後、地域社会においては、一層の高度化や複雑化、国際化が進展し、社会人研究者への継続研究・再教育を必要とする分野の多様化や複合化、内容の高度化が進むものと考えられます。

このため、個々の社会人研究者はもとより、企業においても、新たな知識・研究開発技術を修得させることの必要性が一層高まっています。しかし、企業内教育ですべて対応することは困難となってきています。

このことから、大学院博士後期課程で、より高度な技術を体系的に研究開発することの要請が高まっています。更に、企業等の活動範囲が海外に広がるにつれ、博士の学位取得への要望も高まってきています。

しかし、通常の教育方法で大学院教育を実施した場合、社会人は博士前期課程で２年間、後期課程にあっては３年間その勤務を離れて就学することが必要であり、大学院教育を受ける機会が制約されてしまうことになります。

このような地域社会の要請に応えるため、本学大学院工学研究科では、博士前期課程のみならず、博士後期課程においても昼夜開講制を実施し、社会人技術者・研究者が勤務を離れることなく仕事のスケジュールに合わせて、講義・特別研究等を受講できるよう配慮し、その門戸を広く社会に向けて開放します。

このことにより、通常の教育方法では実現することが難しい社会人への入学機会を与え、社会人の継続研修や研究・開発活動の実践を支援し、就学機会の多様化に応えます。更に、博士の学位については、論文博士の取得しか途がなかった社会人に対して、博士後期課程での体系的な研究指導を受ける途を開くことを可能とします。

また、社会人研究者の入学を橋渡しとして、大学と産業界との交流を深め、新しい学問と技術の発展に寄与することも、昼夜開講制を実施する重要な目的の一つに据えています。

（２） 昼夜開講制による具体的な履修方法

① 入学時に、研究指導教員の指導のもとに３年間を見通した履修計画を作成します。

② 社会人が仕事のスケジュールに合わせて１～７時限目までの間に開講される講義・特別研究等を受講できるよう、１年次に１～７時限目に配当した授業科目を２年次には６～７時限目に配当することにより、標準修業年限内で、有職者がその勤務を離れずに１～７時限目に開講された講義・特別研究等を受講できます。

③ 平日に加えて、土曜日も開講します。

④ 社会人学生については、研究テーマに柔軟性を持たせ、企業等での実践的研究が、博士後期課程の研究として相応しいと判断する場合は、それを研究テーマとして認めます。

Ⅰ-６．修業年限の短縮

本研究科では、優れた研究業績を上げていると判断される者は、その業績に応じて標準修業年限を短縮して修了することができます。標準修業年限は３年ですが、本課程に１年以上在学すれば足りるものとします。なお、修業年限の短縮については、入学後、博士論文執筆認定委員会において審議されます。

Ⅰ-７．選抜方法

各選抜区分による選抜方法等は、次のとおりとなります(それぞれアとイにより、総合的に判断します。)。

（１）進学者選抜、一般選抜、社会人特別選抜
ア 書類審査
イ 面接（口頭試問を含む。）
（２）外国人留学生特別選抜
ア 書類審査
イ 面接〔面接は論文（原文が日本語又は英語以外で作成されている場合は、日本語又は英語の抄訳を添付）等に代えることができます。〕

Ⅱ　出願・手順

Ⅱ－１．受付期間

【１１月日程】２０２６年１０月２１日（水）～１０月２８日（水）
【２月日程】　２０２７年１月８日（金）～１月１５日（金）

Ⅱ－２．出願方法

出願書類を本学ホームページ（トップページ ≫ 入試情報 ≫ 大学院入試要項）[https://www.maebashi-it.ac.jp/examinee/admission/boshuyoko.html]よりダウンロード及び印刷し、必要事項を記入等のうえ、出願書類提出用封筒に入れ、「郵送」又は「持参」により提出してください。
郵送：速達の簡易書留とし、**提出期間内必着**
持参：受付時間は、土日祝日を除く平日
９時００分～１２時３０分及び１３時３０分～１７時００分

※出願資格（７）で出願する場合は、事前に確認のため、
① 卒業(修了)証明書又は卒業(修了)見込証明書（原本）＜日本語又は英語以外の言語で作成された証明書は、自国の公的機関で証明した日本語訳又は英語訳を添付＞
② 学位授与証明書又は学位授与申請に係わる証明書（原本）（卒業証明書等で学位取得が確認できる場合は不要です。）＜日本語又は英語以外の言語で作成された証明書は、自国の公的機関で証明した日本語訳又は英語訳を添付＞
③ Ｂ票入学志望票（コピー）
④ Ｆ票研究計画書（コピー）
を、【１１月日程】は２０２６年１０月２日（金）までに、【２月日程】は２０２６年１２月４日（金）までに事前に下記「Ⅱ－３．出願先」まで連絡のうえ、提出してください。

Ⅱ－３．出願先

郵送：〒３７１－０８１６　群馬県前橋市上佐鳥町４６０番地１
前橋工科大学　学務課入試広報係
持参：前橋工科大学　１号館１階　事務局学務課入試広報係
ＴＥＬ　０２７－２６５－７３６１（学務課直通）

Ⅱ－４．入学検定料

入学検定料　３０，０００円
入学検定料の支払時は、別途、手数料がかかります。
一度納付された入学検定料は、次の①～④のいずれかに該当する場合を除き、どのような理由があっても返還しません。
① 入学検定料を二重に納入した場合
② 入学検定料の納入後、出願手続をしなかった場合
③ 出願無資格者であることが判明した場合
④ 出願期間後に出願書類の提出があった場合
※上記①～④の場合は、入学検定料から振込手数料を差し引いた金額を返還します。納入した入学検定料の対象となる試験の実施日までに、本学学務課入試広報係に問い合わせてください（「Ⅱ－３．出願先」）。
※本学大学院博士前期課程を修了見込みの者で、引き続き本学大学院の博士後期課程への入学を志願する者については、納入不要です。

Ⅱ－５．出願書類

出願に必要な書類		作　成　方　法　等	進学者	一般	社会人	外国人
A 票	進学志望票	本学大学院からの進学志望者用です。 黒色のボールペン（消せるボールペンは不可。以下同じ。）で記入又はパソコン等で作成してください。	○			
B 票	入学志望票	本学大学院以外からの入学志望者用です。 黒色のボールペンで記入又はパソコン等で作成してください。		○	○	○
C 票	受験票	縦４㎝×横３㎝の写真（正面上半身脱帽背景なし、出願前３か月以内に撮影したもの）の裏に氏名を記入し、写真貼付欄に貼付してください。カラー・白黒は、問いません。	○	○	○	○
D 票	写真票					
E 票	志望理由書	本募集要項の様式をふまえたものであれば、パソコン等で作成したものでも可とします。研究計画書には、指導教員の自署、又は記名押印が必要となります。	○	○	○	○
F 票	研究計画書		○	○	○	○
G 票	修士論文の概要、研究経過報告書	修士課程修了者は修士論文の概要を、修士課程修了見込者は研究経過報告書を、それぞれ具体的かつ簡明に１，０００字以内で記入してください。	○	○		○
H 票	研究業績・技術開発業績調書	学術論文、研究発表・報告、特許等の概要は各々２００字程度にまとめてください。	該当者のみ			
I 票	身元保証書	外国籍の者は提出してください。身元保証人の条件に該当する人が、自筆で記入してください。	該当者のみ			
J 票	入学検定料納付証明書	入学検定料は、『振込依頼書』を使用し、金融機関(ゆうちょ銀行は除く)の窓口にて納入してください。ATMやインターネットバンキングでの納入はしないでください。 入学検定料納入後、『入学検定料納付証明書』を貼付欄に貼付してください。受領印のないものは、受け付けできません。 「Ⅰ－３．出願資格」（２頁）の外国人留学生特別選抜のうち、海外居住者は、「志願者氏名」欄に志願者本人の名前をパスポートに記載されている通り記入し、英語の名前表記とカタカナでのふりがなを必ず記入してください。「住所」欄には、代理人の住所を記入してください。		○	○	○

<table>
<tr><th>出願に必要な書類</th><th>作　成　方　法　等</th><th>進学者</th><th>一般</th><th>社会人</th><th>外国人</th></tr>
<tr><td>成績証明書〔＊〕</td><td>出身学校所定の用紙で作成されたものを提出してください。なお、在学中の場合は、履修中の科目が記載されているもので出願前１か月以内に発行されたものを提出してください。
ただし、「証明書が１通しか発行されない」等の理由でオリジナル（原本）を提出できない場合は、大使館等公的機関で原本証明されたものを提出してください。
日本語又は英語以外の言語で作成された証明書は、自国の公的機関で証明した日本語訳又は英語訳を添付してください。
なお、本学学務課においても原本証明の対応を行うことができます。
【学務課において原本証明を行う場合について】
事前に学務課に連絡のうえ、オリジナル（原本）を持参し、厳封を受けた書類を出願時に提出してください。
【１１月日程】
受付期間：２０２６年9月３０日（水）
～２０２６年１０月１６日(金)
【２月日程】
受付期間：２０２６年１１月３０日（月）
～２０２６年１２月１８日(金)
受付時間：土日祝日を除く平日
９時００分～１２時３０分及び
１３時３０分～１７時００分</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>卒業(修了)証明書又は卒業(修了)見込証明書〔＊〕</td><td rowspan="2">出身学校所定のものを提出してください。
ただし、「証明書が１通しか発行されない」等の理由でオリジナル（原本）を提出できない場合は、大使館等公的機関で原本証明されたものを提出してください。また、取得した学位の記載が無い場合は、学位取得に関する証明書も併せて提出してください。
日本語又は英語以外の言語で作成された証明書は、自国の公的機関で証明した日本語訳又は英語訳を添付してください。</td><td colspan="4" rowspan="2">選抜方法に関係なくいずれか該当するものを提出してください。</td></tr>
<tr><td>学位授与証明書又は学位授与申請に係わる証明書〔＊〕</td></tr>
<tr><td>前橋市の
住民票の写し</td><td>前橋市内居住者（「Ⅵ-２．入学に係る経費」（１１頁）参照）に該当する場合は、入学金減免の対象となるので、住民票の写しを提出してください。なお、配偶者又は１親等の親族が前橋市内居住者の場合は、本人との関係性が分かる書類を併せて提出してください。
外国籍の者で国籍及び在留資格を確認できる書類として、既に資格審査で提出してある場合は二重に提出する必要はありません。</td><td></td><td colspan="3">該当者のみ</td></tr>
</table>

出願に必要な書類	作　成　方　法　等	進学者	一般	社会人	外国人
国籍及び在留資格を確認できる書類	（海外居住者）パスポートのコピーを提出してください。 （在留者）市区町村長の発行する「住民票の写し」(国籍・在留資格及び在留期間が明記されているもの）を提出してください。	該当者のみ			○
外国人留学生特別選抜の面接に代わる論文等	面接を論文等に代える場合は、提出してください。(原文が日本語又は英語以外で作成されている場合は、日本語又は英語の抄訳も添付してください。抄訳には、作成者の署名と連絡先が必要です。)				該当者のみ
受験票 返送用封筒	長形３号（２３．５㎝×１２㎝）の封筒に、出願する者の郵便番号、住所、氏名を明記し、定形郵便（５０ｇ まで）＋速達分と簡易書留分の切手を貼ったもの。 なお、受験票を直接受け取る場合は切手の貼付は必要ありません。	○	○	○	○
出願書類 提出用封筒	提出書類送付用ラベルに、志望専攻・分野、差出人等の必要事項を記入し、角２封筒にはがれないように糊付してください。	○	○	○	○

＊　原本が日本語又は英語以外で作成されている場合は、「原本」と「日本語又は英語で作成された訳文」をそれぞれ提出してください。翻訳が本国の出身学校・大使館等の公的機関のものでない場合は、内容が原本と相違ないことを、本国の出身学校・大使館等の公的機関で証明を受ける必要があります。海外の公証役場による証明は、認めません。

※ 出願書類は原本（コピー不可）を提出してください（提出された出願書類は返却できません。）。

※ 出願資格審査で、「志望理由書」、「研究計画書」、「研究業績・技術開発業績調書」、「卒業証明書又は卒業見込証明書」、「成績証明書」を提出した者は、出願時に再度提出する必要はありません。

※ Ａ～Ｊ票については、「××年度」、「××月日程」の空欄に出願年度、日程を記載してください。

Ⅱ－６．障がい等への配慮を必要とする入学志願者の事前相談

障がい等のある方が本学への入学を志願する場合で、受験上及び修学上の配慮を必要とする可能性があるときは、次のとおり、出願前に必ず連絡し、相談してください。また、相談期限後に不慮の事故等により身体等に障がいを負うこととなった場合も、速やかに相談してください。

（１）相談期間

【１１月日程】２０２６年　９月２４日（木）から　９月３０日（水）まで

【２月日程】　２０２６年１１月２０日（金）から １１月２７日（金）まで

（２）相談方法

事前に本学学務課入試広報係まで電話連絡し、本学で定める相談申請書（住所・氏名・性別・連絡先・志望分野・障がいの状況・受験上、修学上特別な配慮を希望する事項・出身学校等で取られていた特別措置を明記してください）及び診断書等の必要書類を提出してください。必要な場合は、本学において志願者又はその立場を代弁し得る関係者等との面談を行います。

（３）連絡先・提出先

「Ⅱ－３．出願先」（５頁）と同じ。

Ⅲ　試験会場及び試験日時

各選抜区分による選抜方法等は、次のとおりとなります。

○ 試験会場：前橋工科大学　（試験室等は、当日に受付（１号館）でお知らせします。）

○ 試験日時

【１１月日程】２０２６年１１月２２日（日）

【2月日程】　２０２７年2月７日（日）

○ 試験時間

選抜区分	時　間　割		
	※		
進学者選抜 一般選抜 社会人特別選抜 外国人特別選抜	諸注意	**面　接**	

※ 面接開始時間は、受験票発送時にお知らせします。

Ⅳ　受験上の注意事項

Ⅳ−１．試験場への入退場

（１）受験生は、試験開始の３０分前までに指定された試験室に入室し、着席してください。

（２）駐車場は数に限りがありますので、公共交通機関等を利用してください。公共交通をご利用の方は、帰りの運行時間等にご注意ください。

（３）指定された試験場及び試験室以外では、いかなる理由があっても、受験はできません。

Ⅳ−２．個人的事情による遅刻者の扱い

面接では、試験開始時に不在であった場合は、欠席したものとして取扱います。

Ⅳ−３．公共交通機関の遅延による遅刻者の扱い

（１）公共交通機関の大幅な遅延による遅刻の場合は、別室での受験を認めることがあります。この場合は、試験場入口で係員に申し出てください。

（２）公共交通機関の大幅な遅延が生じ、試験当日多くの受験生に影響があると本学が判断した場合、試験の実施に支障を来さない範囲で、全体の試験開始時間を繰り下げることがあります。このことに伴う受験生の個人的な損害については、本学は、責任を負いません。

Ⅳ−４．受験上の注意事項

（１）試験当日は、受験票を必ず持参してください。

（２）試験当日は、受験票を忘れた者は、速やかに１号館１階にある大学事務局で再発行手続をしてください。また、受験票は入学手続の際に必要となりますので、試験後も大切に保管してください。

（３）試験室等は、当日に受付（１号館）でお知らせします。

（４）面接試験において、開始時に不在であった場合には、欠席したものとして取扱います。

（５）試験当日に該当する試験を全科目受験しなかった者は、入学者選抜の対象から除きます。

（６）携帯電話やスマートフォン、スマートウォッチなどのウェアラブル端末は、アラーム機能を止め、本体の電源を切って、かばんに入れ、身に付けないでください。なお、試験時間中にかばん等の中で音などが発生した場合は、監督者が本人の了承を得ずにかばん等を試験室外に持ち出し、試験場本部で当該試験時間終了まで保管します。

（７）試験室における受験生間の物品の貸借は、一切認めません。

（８）面接試験会場には、受験票のみ持ち込みを許可します。

（９）面接の順番により面接が午後になる場合があります。昼食を持参し、自席で食事をとってください。食堂の営業は行いません。また、休憩時間や昼食時等における他者との接触、会話を極力控えてください。午前中に終了した場合は、食事にメイビットホールを利用できます。

（１０）駐車場は数に限りがありますので、可能な限り公共交通機関をご利用ください。

（１１）本学は、宿泊施設の斡旋は行っていません。
（１２）試験会場及びその周辺で合格電報、レタックス等の受付を行う者がいても、本学とは一切関係がなく、トラブル等が生じても責任を負えませんので、注意してください。
（１３）試験日前日の午前に限り試験会場の下見ができますが、建物内（試験室等）への立入りはできません。
（１４）マスクを着用している場合は、顔写真照合の際、一時的にマスクを外していただくことがあります。
（１５）試験当日、学校保健安全法で出席の停止が求められているインフルエンザや新型コロナウイルス等の感染症になり治癒していない者は、他の受験生等への感染のおそれがありますので、受験をご遠慮願います。なお、これにより受験をご遠慮いただいた場合でも、追試験などの措置や入学検定料の返還は行いませんので、試験当日の体調管理については、十分に注意してください。
（１６）不測の事態等が生じ、試験実施が困難であると判断した場合は、試験を中止し、又は試験形態を変更することがあります。ただし、このことに伴う受験生の個人的な損害については、本学は責任を負いません。
（１７）試験の実施に関して変更等がある場合は、本学ホームページに掲載しますので、試験前に確認してください。

Ⅳ-５．受験心得
（１）試験時間中は、監督者の指示に従ってください。不正行為を行った者は失格とします。
（２）公正な入学試験の実施を妨げるような行為があったと認められた場合、本年度の本学におけるすべての入学試験において不合格とします。
（３）試験時間中は退出することはできません。試験時間中に体調不良、トイレ等により、やむを得ず退出を希望する場合は、挙手をして監督者に知らせ、その指示に従ってください。ただし、受験を中断した場合でも、試験時間の延長は、認めません。
（４）面接が終了していない受験者が、面接が終了した受験者から面接の内容を聞くことや面接が終了した受験者が面接を終了していない受験者に面接の内容を教えることは、不正行為となり、双方が失格となります。

Ⅴ　合格発表
Ⅴ-１．発表日
【１１月日程】２０２６年１２月７日（月）
【２月日程】　２０２７年２月１９日（金）

Ⅴ-２．発表方法
合格者には、「合格通知書」及び「入学関係書類」を送付します。また、合格者の受験番号は、本学ホームページ(https://www.maebashi-it.ac.jp/) で合格発表日の正午を目途に掲載しますが、合格通知書の送付をもって正式通知とします。なお、電話等による合否の問い合わせには、一切応じません。

Ⅵ　入学手続
Ⅵ-１．入学手続
（１）入学手続期間
【１１月日程】２０２６年１２月８日（火）～１２月１７日（木）
【２月日程】　２０２７年２月２０日（土）～３月２日（火）
（２）入学手続方法
入学手続書類を「郵送」又は「持参」により提出してください。
郵送：速達の簡易書留とし、**提出期間内必着**
持参：受付時間は、土日祝日を除く平日
９時００分～１２時３０分及び１３時３０分～１７時００分
（３）入学手続先

「Ⅱ-３．出願先」（５頁）と同じ。

（４）入学手続上の注意事項

① 合格者が、入学手続期間内に入学手続を完了しない場合は、入学を辞退したものとして取り扱います。

② 必要な書類が全て揃っていない場合は、受け付けませんので、書類の提出の際には十分確認をしてください。また、入学手続期間を過ぎて到着した場合も受け付けませんので、郵送の場合は、所要日数を十分に考慮して発送してください。

③ 「卒業（修了）見込み」で出願した者が、２０２７年３月３１日までに卒業（修了）できなかった場合は、入学許可を取り消します。

④ 入学料を振り込んだだけでは、入学手続を行ったことには、なりません。

⑤ **一度受付をした入学手続書類及び納入された入学料は、どのような理由があっても返還しません。**ただし、次のア又はイに該当する場合は、入学料を返還しますので、入学手続期間の最終日までに学務課入試広報係に問い合わせてください（振込手数料は本人負担となります。）。

ア　二重に納入した場合

イ　入学料の納入後、入学手続をしなかった場合

入学手続書類を受理しなかった場合は、本学から返還手続の案内を行います。

（５）入学辞退

合格者が入学手続期間内に入学手続を完了しない場合は、入学を辞退した者として取扱います。

※修了見込み又は学位授与見込みで出願・合格し、入学手続を完了した場合でも、２０２７年３月３１日までに修了又は学位授与されないことが判明した場合には、入学資格を失います。

※社会人特別選抜入試で出願・合格した場合は、入学手続時に本学所定の在職証明書を提出していただきます。提出ができない場合は、入学資格を失います。

Ⅵ-２．入学に係る経費

		金　　額	納入時期
入　学　料（注１）		２８２，０００円	入学手続時
		１４１，０００円（前橋市内居住者）（注２）	
諸経費	災害傷害保険料（注３）	３，６２０円	入学前
	後援会費	４０，０００円（本学以外の大学院等出身者）	
		３０，０００円（本学大学院出身者）	
	同窓会費	２０，０００円（本大学、前橋市立工業短期大学、本学大学院出身者のうち、既に同窓会に加入している者は不要）	
	学生自治会費	１６，０００円（本学以外の大学院等出身者）	入学時
		１５，０００円（本学大学院出身者）	
授業料（年額）		５３５，８００円	４月及び１０月

※改定が行われた場合には、改定後の額が適用されます。

（注１）本学大学院博士前期課程を修了見込みの者で、引き続き本学大学院の博士後期課程への入学を志願する者については、納入不要です。

（注２）「前橋市内居住者」とは、入学する者又は配偶者若しくは１親等の親族が２０２７年４月１日において引き続き1年以上前橋市に住所を有している者（２０２６年４月１日～２０２７年４月１日までの間、前橋市に住民登録がある者）とします。

「前橋市内居住者」として入学料を納入した者は、２０２７年４月１日以降に取得した前橋市の住民票の写し（２０２７年４月１日以降に転出した者は住民票の除票）を提出して頂きます。前橋市内居住者の条件を満たしていないことが判明した場合は、差額を納入して頂きます。

（注３）災害傷害保険料は、学生教育研究災害傷害保険料・学研災付帯賠償責任保険料（正課中、学校行事中、課外活動中、通学中における傷害事故に対して補償するものです。また、他者にケガをさせたり、財物を損壊したりした場合の補償も含まれます。保険料の改定が行われた場合は、改定時から新保険料が適用されます。）です。２０２７年３月３１日（水）までに払い込んでください。

Ⅶ　その他

Ⅶ-１．個人情報の取扱い

本学では、提出された書類及び入学試験の実施により志願者の個人情報を取得しますが、これらの個人情報については、関係法令を遵守し、次の目的以外には利用しませんのであらかじめご了承ください。

（１）入学者の選抜及び入学手続業務を行うために利用します。

（２）統計資料の作成や今後の入学者選抜方法の検討資料を作成するために利用します。

（３）入学者の個人情報は、教務関係、学生支援関係及び授業料徴収業務関係の業務を行うために利用します。また、本学関連団体である前橋工科大学後援会、前橋工科大学同窓会及び前橋工科大学学生自治会において、各団体の運営に必要な事項のみ利用します。

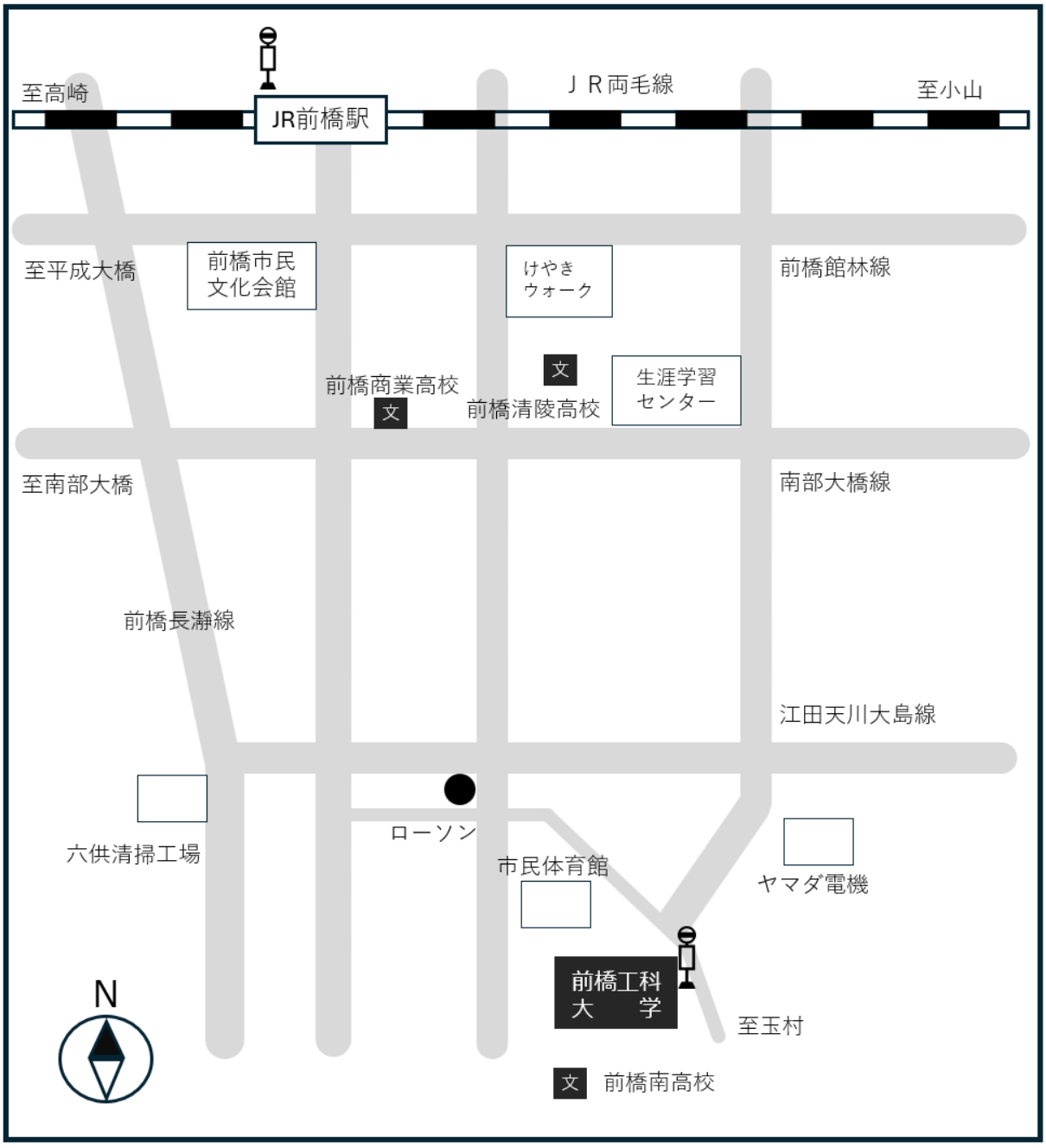
なお、本学が上記の業務を行うに当たり、外部の事業者に委託することがあります。
その際の個人情報は、上記（１）～（３）に基づき、適切な取扱いをすることとし、業務終了後は速やかに破棄する契約を締結します。

外国在住志願者は、日本に在住していて志願者をよく知っている人（代理人）を通じて出願してください。代理人は、検定料の納入、出願、合格発表、入学金の納入を含め、入学手続まで関わることになりますので、外国在住志願者は、代理人となる人に必ず了解を得てください。

また、各種あて先は、代理人等の住所となります。

Ⅶ-２．前橋工科大学へのアクセス

前橋工科大学案内図



アクセス

- バス　　ＪＲ前橋駅北口４番乗場から約１０分「前橋工科大前」下車
- タクシー　ＪＲ前橋駅から約１０分
- 徒歩　　ＪＲ前橋駅から約４５分

Googleマップ

博士後期課程開設研究室一覧

1．環境デザイン工学分野

研究室名	職　名	教員名等	研究内容
構造工学研究室	教　授	あさり　てつひろ 麻里　哲広 E-mail：asari @maebashi-it.ac.jp	美しい建築物の裏には構造工学に関する高度な理論や技術が存在している。地震大国である日本においては構造工学の発展が日々の安心・安全を支えている。そこで、生命・財産・文化の保全、都市機能を維持する防災機構、環境負荷の低減を目指した構造工学理論を発展すべく、数値解析等の研究を行う。建物の力学挙動を把握し、先端的な建築構造の実現を図ること、および都市・建築の安全性向上を目標とする。
鉄筋コンクリート系構造研究室	教　授	きたの　あつのり 北野　敦則 E-mail：kitano @maebashi-it.ac.jp	鉄筋コンクリート系構造におけるせん断抵抗性能評価法は、理論的に未解明な点が多いのが現状である。そこで、鉄筋コンクリート構造やコンクリート系合成構造（鋼コンクリート構造）を対象とし、部材のせん断設計法や耐震性能評価法について、実験データを用いた数値解析により検討を行う。特に、鋼コンクリート合成構造は、多種多様な設計ニーズに応えることができ、耐震性にも優れた構造であるから、その接合部の構成は複雑になる。そのため、応力伝達機構を考慮した合理的な接合部の開発や合理的設計法について調査分析及び解析的検討を行う。
建設材料化学研究室	教　授	さがわ　たかひろ 佐川　孝広 E-mail：sagawa @maebashi-it.ac.jp	地球温暖化抑制対策の一環として、CO2の削減は産業界全体で取り組むべき重要な課題であり、コンクリート産業において各種混和材料を最大限に利活用することが喫緊の課題である。本研究では、各種混和材料を用いたセメント硬化体を対象に精緻な水和反応解析を行い、水和機構や硬化体特性を解明することで、混和材料を用いたコンクリートの物性・耐久性予測モデルを構築したり、新規材料開発に関する研究を行う。
循環システム工学研究室	教　授	たなか　つねお 田中　恒夫 E-mail：t-tanaka @maebashi-it.ac.jp	地球、日本あるいは地域が持続可能であるためには、環境と経済と社会の調和・共生とそれぞれのシステムが持続可能であることが必須である。特に、環境すなわち自然資源の劣化は生活環境の悪化や経済活動の低下に結びつくことから、環境は、社会及び経済の基盤と考えることもできる。本研究では、このような考え方を基本として地域の持続可能性を志向し、一方向の物質の流れから循環システムへの転換に必要なソフトシステムやハード技術などについて研究する。
建築設備研究室	教　授	みたむら　てるあき 三田村　輝章 E-mail：mitamura @maebashi-it.ac.jp	近年、建築を取り巻く環境問題は、シックハウスや室内熱中症など、気密化住宅の普及や都市部を中心とする気候変化などにより、新たな局面を迎えている。また、一方では地球温暖化対策として建物外皮の性能向上や建築設備における自然エネルギー利用などが求められている。そこで、建築気候の構成要素として熱・空気を取り扱い、様々な環境問題に対して実測と数値解析を併用した手法により、その実態把握と防除策について検討を行う。
地域・交通計画研究室	教　授	もりた　てつお 森田　哲夫 E-mail：tmorita @maebashi-it.ac.jp	安心して暮らす、安全・快適に移動する、環境に負荷を与えない生活をする･･･地域・交通計画は人の生活に直結する研究分野である。計画を立案するためには、都市の成り立ちや人の行動・意識を把握し、問題・課題を定量的に分析し、計画案を市民に説明し理解を得る必要がある。本研究室では、都市の問題・課題を対応するため、1)定量的な予測・評価に基づく都市・交通計画、2)調査データを用いた生活・行動分析、3)総合的な都市環境評価に関する研究、4)地域や市民参加による都市計画策定プロセスの研究に取り組む。
都市計画・地域計画研究室	准教授	からしま　かずき 辛島　一樹 E-mail :k-karashima @maebashi-it.ac.jp	長期的人口減少社会や自然災害リスク等を考慮した安全・安心かつ持続可能な都市構造の実現，広域計画・広域連携の推進，にぎわいのあるまちなか空間の実現，その他喫緊の社会的課題等について，歴史や風土，文化等を踏まえたうえでの調査分析に基づき，計画論の提案，計画支援の在り方について研究する。 その手段として，積極的に今後の将来を担う技術の活用を試みる。

研究室名	職 名	教員名等	研究内容
建築サステナブル構造工学研究室	准教授	さとう りょうすけ 佐藤 良介 E-mail：r-sato @maebashi-it.ac.jp	少子高齢化が進行する我が国の建築分野は昨今、「深刻化する担い手不足」との社会問題に直面している。他方、建築分野には元来、「衣食住の一翼を担う」観点で生活に欠かすことのできない側面がある。よってこの分野における生産性向上・省力化等に工学・技術を介して寄与することは、眼前にある社会問題から生活基盤を守り、以て持続可能な社会を構築するために不可欠な課題として位置づけられている。 当研究室はこのような背景を踏まえて開設された建築構造系の研究室であり、一般的な力学や各種構造の「その先」、たとえばプレキャスト鉄筋コンクリート構造や合成構造等についての研究を、実験・解析双方のアプローチから行う。さらにはこれら構造部材と環境配慮系材料の関係などについても学び、「世界的に求められている環境問題の観点から持続可能な社会に貢献する」可能性の模索も行う。
コンクリート研究室	准教授	したま こういちろう 舌間 孝一郎 E-mail：shitama @maebashi-it.ac.jp	コンクリートは主要な建設材料であるにも拘らず、製造・施工・養生から経年劣化まで極めて多くの不確定要素が存在するために、必要な性能を確保するための合理的な設計や施工が困難な材料である。本研究室は、コンクリート構造物の維持管理問題の解決の一助となるように、群馬県を研究フィールドとして、新設構造物の合理的な耐久性能確保（品質確保）システムの確立を目指す。また、高性能コンクリート2次製品や簡易品質評価手法の開発なども行っている。
建築生産研究室	准教授	つつみ ひろき 堤 洋樹 E-mail：tutumi @maebashi-it.ac.jp	建物の維持管理についてソフト・ハードの両面から実験・調査を行い、建物の長寿命化を実現する適切な管理手法のあり方について検証を行っている。 本年度は主に、建物の改修工事費に関する研究、公共施設マネジメントの手法に関する研究、既存建物の劣化及び管理状況に関する調査、木造大壁の非破壊検査手法に関する研究、インフラの維持保全計画・再整備に関する研究を行う。
水工学研究室	准教授	ひらかわ りゅういち 平川 隆一 E-mail：hirakawa @maebashi-it.ac.jp	人間活動には、様々な水理環境現象が密接に関わっている。それらの大部分が未解明であり、河道環境や水理構造物及び流域減災に関する研究発展が必要である。一方、流域を適切に保全あるいは改良していくために、水・土砂・物質環境と人間及び生物との関係をより良いものに変えていくことが求められている。本研究室では、地表水や地下水を対象として、水の流動・物質移動・生態系への影響について研究する。それらの基礎学理を室内実験や現地観測及び数値シミュレーションにより解明し、人間活動とのバランスの取れた流域環境について研究する。
構造力学研究室	准教授	みやがわ むつみ 宮川 睦巳 E-mail：miyagawa @maebashi-it.ac.jp	被災構造物の深刻な損傷を限定的なものにとどめる技術と、その損傷を災害直後に短時間で把握し、健全性を評価するための技術は都市機能を維持するうえで急務な課題である。これらの課題解決に向けて、弾性学、破壊力学などの基礎研究および機能性材料を用いた研究を行う。
防災地盤工学研究室	准教授	もり ともひろ 森 友宏 E-mail：mori @maebashi-it.ac.jp	近年、人間の生活領域の拡大、および自然外力の激甚化により、災害の発生頻度が増加してきており、発生する災害の種類、位置、メカニズム、発生確率、発生時の被害の甚大性などを事前に予測し、効果的かつ経済的な対策手法を定めていくことが求められている。本研究室では、自然災害の防止、および被害の低減を図るために、地盤の物理・力学的特性（特に不飽和土に関する特性）に基づいた災害発生の予測手法、防災技術の開発を行う。また、自然災害の発生予測結果を適切に国民に周知する手法、および、予測結果を用いたリスクコミュニケーションに関する検討も行う。

2. 生命工学分野

研究室名	職 名	教員名等	研究内容
神経科学研究室	教 授	いしかわ やすゆき 石川 保幸 E-mail: yishikaw @maebashi-it.ac.jp	様々な研究レベルにおける方法論的アプローチ(電気生理学・分子生理学・行動学)により、神経可塑性の生理学的性質を分子, 神経回路網レベルから個体レベルまでの研究を行う。脳・神経システムの基本から、脳機能全体の中での個別の機能を深く理解していく。
情動感性生理学研究室	教 授	しゅとう ふみひろ 首藤 文洋 E-mail: fshutoh @maebashi-it.ac.jp	こころを情動や感性に基づく生物現象として捉え、発現機構をヒト対象実験と単純化で構築したモデル動物実験により解析する。ヒト対象実験では脳電位計測や筋電位計測および自律神経反応計測等を、動物実験では組織学、電気生理学、生化学による解析を必要に応じ組み合わせ、情動や感性の脳機能に効果がある感覚刺激による生体反応を取得・分析する。
生体情報解析研究室	教 授	すがわら かずはる 菅原 一晴 E-mail: kzsuga @maebashi-it.ac.jp	細胞や生体分子を対象に、その機能を評価し解明する研究を進めている。その際には生体内での分子間結合をモニタリングする手法を開発している。また、タンパク質、糖鎖をターゲットとした生体分子間相互作用についての反応機構に関する知見を得ることを目的としたアプローチも行っている。
理論計算機科学研究室	教 授	とおやま ひろあき 遠山 宏明 E-mail: tohyama @maebashi-it.ac.jp	理論計算機科学とは、コンピュータをチューリング機械などにより数理モデル化し、コンピュータ自身を数学的に解析する学問である。主な研究テーマは、①問題を解く際に必要とする時間量や記憶域量を解析し、計算の限界を追及する計算量理論に関する研究、②問題を解くための具体的な算法の考案や算法の解析を行うアルゴリズム理論に関する研究、③量子力学的な重ね合わせにより並列計算を実現する量子コンピュータや量子情報に関わる基礎理論の研究などを行っている。
微生物工学研究室	教 授	はやし ひでのり 林 秀謙 E-mail: h-hayashi @maebashi-it.ac.jp	自然界から有用物質生産菌の分離及び同定を行い、その有用産物生産に関わる機能遺伝子解析の研究指導を行う。さらに分子生物学的手法により微生物群集解析を行い、微生物生態学研究の指導も合わせて行う。
タンパク質情報研究室	教 授	ふくち さとし 福地 佐斗志 E-mail: sfukuchi @maebashi-it.ac.jp	今世紀に入り生命科学ではゲノム情報に続き、大規模プロジェクトを中心とし、大量な情報が生み出されている。今世紀の生命科学では、大量の知識からいかに有用情報を引き出すかが鍵となる。本特別研究では、データベースに収められた生命科学情報を駆使し、有用な知見を発見する知識・技術の習得とともに、得られた成果を論文としてまとめる能力を養う。

研究室名	職 名	教員名等	研究内容
ネットワークセキュリティ研究室	教 授	みかわ けんじ 三河 賢治 E-mail: mikawa@maebashi-it.ac.jp	離散数学を基礎として、ネットワークセキュリティを中心に問題を解決するアルゴリズム、情報システムの研究開発を行う。最近の研究では、ネットワーク上の危険な通信を特定したり、膨大なデータから特定のパタンを抽出したり、探索アルゴリズムの高速化に注力している。また、技術的なセキュリティ対策だけでなく人的セキュリティの確保を目的に安全な情報システムの研究開発を進める。
ゲノム生物学研究室	教 授	やました さとし 山下 聡 E-mail: syamashi@maebashi-it.ac.jp	細胞が情報を記録しているゲノムおよびエピゲノムの異常について研究を進める。ゲノムおよびエピゲノムの異常の解析方法の開発、疾患(主に癌)の臨床的性質に関連する異常の同定、異常を発生あるいは抑制させる物質の探索やメカニズムの生化学的解析、ゲノムおよびエピゲノム情報からのデータマイニングなどを行い、人々の健康な生活に貢献することを目指す。
リモートセンシング研究室	准教授	あらい たけひこ 荒井 武彦 E-mail: araitakehiko@maebashi-it.ac.jp	惑星探査機に搭載する地質・生命探査用の観測(リモートセンシング)機器の開発を行う。また、月面探査用の歩行ロボットやローバを開発する。実際に開発した装置で惑星を観測し、データ解析を行って、惑星や地球、生命の起源や進化の過程を明らかにする。
生体機械システム研究室	准教授	あんどう のりやす 安藤 規泰 E-mail: ando@maebashi-it.ac.jp	生物の動きのメカニズムを脳・神経系，身体の構造，生物を取り巻く環境の三点から解明し，「生物らしい」しなやかで適応的な動きの工学的再現を目指す。動物運動や行動の定量化，行動中の生体情報計測など目的に適った計測システムの設計と製作，データの取得と解析等を行い，運動を生成する能動的・受動的要因を考察する。一連の活動を通して研究の組み立て方，科学的な思考と表現能力を養成する。
神経電子計測システム研究室	准教授	おだがき まさと 小田垣 雅人 E-mail: odagaki@maebashi-it.ac.jp	大脳皮質を非侵襲で刺激する経頭蓋磁気刺激法等の脳機能計測法を用いて運動関連の脳機能について検討する。リハビリテーションに応用可能な新しい知見を得ることを目指して脳をシステム的に同定することを目的とする。また、これらの知見に基づく新しい医療・福祉機器の開発を目指すことで、医療福祉分野の研究者を養成する。
分子生命科学研究室	准教授	かたやま しょういち 片山 将一 E-mail: s-katayama@maebashi-it.ac.jp	疾患モデル細胞および個体を用いて、遺伝子疾患の発症機構を分子レベルで解明することを目指している。特に、細胞内シグナル伝達のキープレイヤーであるプロテインキナーゼによるリン酸化機構と疾患発症との関係を、主要な研究課題としている。さらに、臨床診断ツールや組み換え医薬品の開発にも取り組んでいる。
食品材料科学研究室	准教授	すぎやま りゅうじ 杉山 立志 E-mail: sugiyama.ryuzi@maebashi-it.ac.jp	食品は原材料に由来する特有の物性をもつ。パラフィン切片などを用いて内部構造を観察し、成分分析やRNA発現解析によって各成分の合成部位や制御機構を明らかにする。また、クリープメータを用いて素材間の違いや加工前後の強度を測定し、内部構造との関連性を検証する。これらの知見を統合することで、食事の楽しさを高める素材や新しい食品を開発する。
システム生物学研究室	准教授	せきぐち たつや 関口 達也 E-mail: sekiguchi@maebashi-it.ac.jp	生物の持つ制御機構に関する研究を行っている。そのために、細胞内の代謝過程に伴う酵素反応のシミュレーションと、実験データの検証を行うことができるソフトウェアの開発を行っている。また、開発したソフトウェアを用いて、微生物によるアルコール発酵の代謝過程の調査や、様々な種類の化学物質の効率のよい生産を目指した人工代謝経路の設計を行っている。

研究室名	職　名	教員名等	研究内容
情報システム研究室	准教授	とみさわ　まさき 冨澤　眞樹 E-mail：tomisawa@maebashi-it.ac.jp	情報システムと計算機科学の研究をしている。情報システムとは、人を中心とする社会環境と多様な情報の接点にある課題を解決する仕組みであり、高い個別性と一回性を有している。これまで開発した情報システムは、VAEGANを用いた仮想試着システム、MediaPipeを使った療育ゲーム、拡張現実を使った学習教材システム、感情合成音声による昔話の読み上げシステムなどである。計算機科学の研究では、情報システムの要素技術に繋がるような分野を扱う。これまでに扱った分野は、自然言語処理、強化学習、深層学習、最適経路問題などである。
微生物分子機能研究室	准教授	はちすか　しんいち 蜂須賀　真一 E-mail:s-hachisuka@maebashi-it.ac.jp	世の中には、環境に適応して進化してきた多様な微生物が存在するが、その機能の多くは未解明である。本研究室は、微生物の分子レベルでの機能解明とその応用を目的とする。特に、環境調和型材料に着目し、プラスチック分解機構の解析や、遺伝子工学・代謝工学を活用した微生物によるものづくりの研究を推進し、持続可能な社会への貢献を目指す。
生体分子ダイナミクス研究室	准教授	ゆう　いっせき 優　乙石 E-mail：yu@maebashi-it.ac.jp	当研究室では、細胞内の生命現象を、生体分子の立体構造や相互作用およびダイナミクスから微視的に解明します。研究手法は主に計算機（高性能コンピュータ）による分子シミュレーションを用い、必要に応じて情報科学的手法も活用します。また、複雑な分子の世界を直観的に理解するために、VRを用いた生体分子の可視化ツールの開発も進めています。これらの研究を通じてソフトウェア開発や創薬方面への応用を目指します。